資　料　1

大学入試改革を見据えた取組みについて（１）

1　高等学校学習指導要領の改訂

H26.11 中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問）

・子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性。

・教育の在り方も一層進化させる必要。特に、学ぶことと社会のつながりを意識し、**「何を教えるか」**という知識の質・量の改善に加え、**「どのように学ぶか」**という、学びの質や深まりを重視することが必要。また、学びの成果として**「どのような力が身に付いたか」**という視点が重要。

H30.3 高等学校新学習指導要領告示

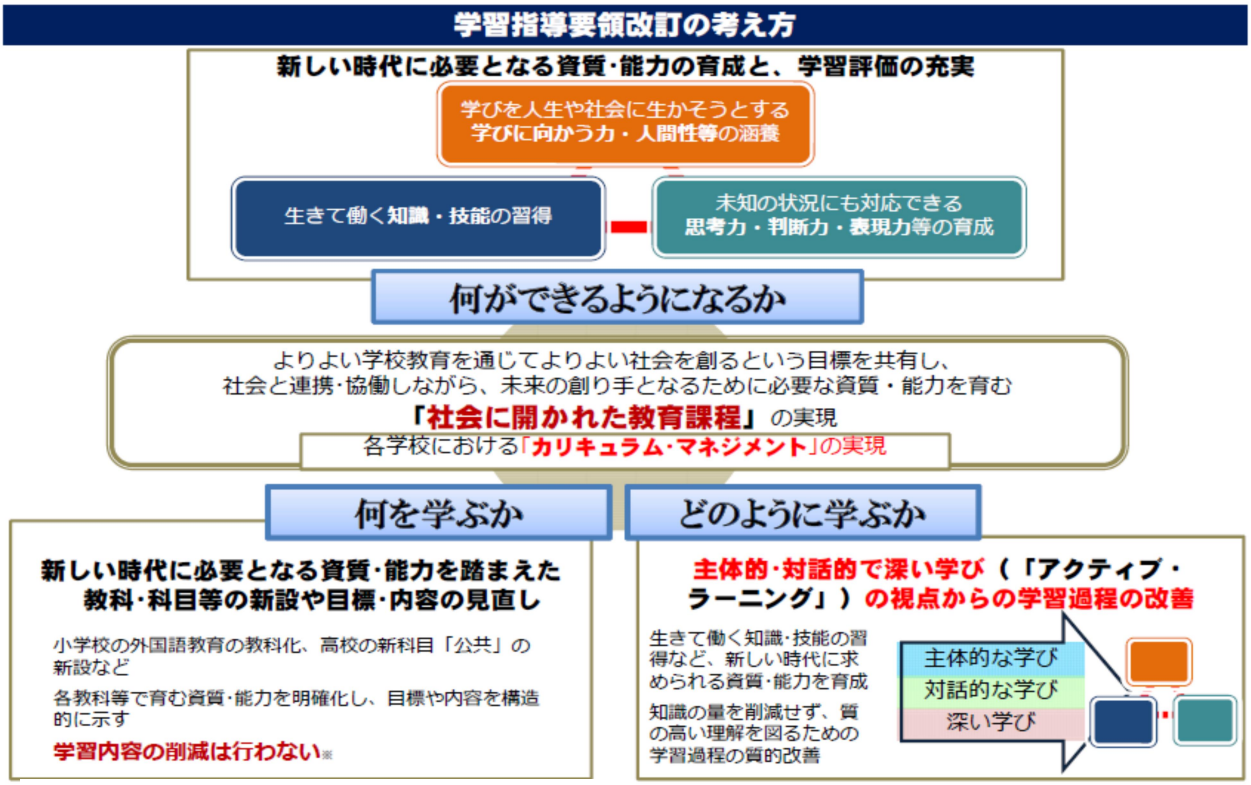
・改訂の基本的な考え方

子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力の確実な育成。「社会に開かれた教育課程」を重視。

知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視。

高大接続改革という高等学校教育改革、大学教育改革、大学入学者選抜改革の一体的改革の中で実施。

・主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメントの確立、教科・科目構成の見直し



2　高大接続改革の動き

H26.12 中央教育審議会　新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）

(1) 各大学の個別選抜改革

(2) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」及び「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施

(3) 高等学校教育の改革（※）

（※）・課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びの推進と高等学校教員の資質能力の向上

・多様な学習活動・学習成果の評価

３　本県における探究科・普通科探究コースの設置経過

H27.6～ 探究科等新学科設置及び普通科活性化に係る検討委員会（３回開催）
H27.11　探究科等新学科の設置及び普通科活性化の方策について報告書提出
H28.5　探究科・普通科探究コース設置校へ説明→各校で教育課程の検討
H28.7　探究科・普通科探究コース紹介パンフレット作成（中学校２年生に配付）
H28.12～H29.5　設置校と教育計画案を協議
H30.4　探究科・普通科探究コース設置校に生徒入学

４　探究科・普通科探究コースの設置校の状況

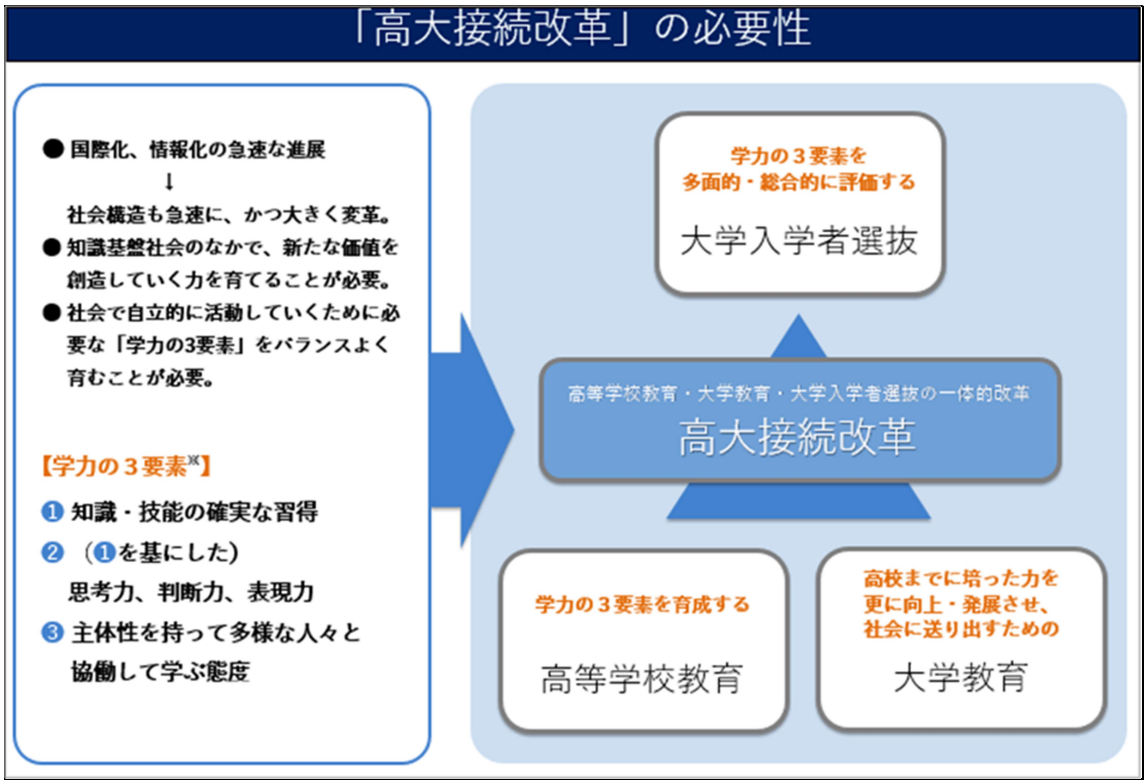
	設置校	高校入選倍率	総合的な学習の時間等の取組
探究科 （２年次から理数探究科国際探究科）	**山形東**	H30 探 2.95 普 0.41 全 1.25 H29 普 1.21 H28 普 1.34	入門合宿や山東探究塾Ⅰ、教科「情報」の時間等で探究型学習のスキルを学んでいる。情報の授業では、「2015年９月の国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）達成のためにできることを考える」のテーマでポスターセッションに取り組んだ。
	米沢興譲館	H30 探 1.75 普 0.56 全 1.04 H29 普理 1.04 H28 普理 1.09	学校設定科目を開設し、論理的思考力の養成や、12分野のコースから選択履修しテーマごとに探究的な活動を行っている。コースの例、有機ＥＬと地域産業、人間社会とロボットなど。山形大学や病院の協力も得ている。
	酒田東	H30 探 1.99 普 0.18 全 0.90 H29 普 1.05 H28 普 1.07	授業では、より高度な思考力を必要とする課題に挑戦する実践が行われている。「課題研究」は、各生徒が関心を持つ分野ごとにグループを作り、課題（リサーチクエスチョン）を設定し解決策を考える探究活動に取り組む。
普通科探究コース （２年次から探究コース理系探究コース文系）	**寒河江**	H30 探 3.38 般 0.43 全 1.02 H29 普 1.22 H28 普 0.99	総合的な学習の時間は、「職業探究」に取組み、各自の進路希望（公務員、看護師等）に応じて、統計などの資料を確認しながら進学先や職業に関するテーマを設定して個人研究をしている。ポスターを作成し発表まで行う。
	新庄北	H30 探 1.45 般 0.76 全 0.90 H29 普 0.80 H28 普 1.02	「地域理解プログラム」に取組み、行政、医療・福祉、金融、観光、産業（製造・建築・農業）、教育などの取材先に対して、地域課題解決のための調査（質問、聞き取り）を行い、グループごとに情報を整理・分析。
	長井	H30 探 2.53 般 0.64 全 1.02 H29 普 1.05 H28 普 0.97	テーマに沿ってグループで議論する機会を多く取り入れる。「人物研究を通じた探究型学習」に取組み、歴史上の人物について、肯定・否定両面から書かれた書籍を読み、グループで協議しながら人物像をまとめ発表。

資　料　２

大学入試改革を見据えた取組みについて（２）

高大接続改革

◆国際化、情報化の急激に進展によりもたらされる知識基盤社会において必要とされる「新たな価値を創造していく力」の前提となる「学力の３要素」を育むために「高大接続改革」が必要となっている。



大学入学者選抜改革

◆受検生の「学力の３要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換

◆大きな柱は平成３２年度「大学入学共通テスト」の実施と「個別選抜」の変更

１　大学入学共通テスト

◆記述式問題の導入（国語・数学）

〇記述式問題導入の理由

・自らの力で考えをまとめたり、相手が理解できるよう根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力を評価

・高等学校に対し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を促していく大きなメッセージ。大学においても、思考力・判断力・表現力を前提とした質の高い教育を期待

〇センターが作問、出題、採点する。採点には「民間事業者」を活用

〇平成３６年度から地歴・公民や理科でも記述式問題を導入する方向

〇国語の記述式問題の成績は段階別に表示される。国立大学協会では、その結果を点数化してマークシートの得点に加点して活用することを基本とし、加点する具体的な点数については、各大学・学部等が主体的に定める。

◆英語の４技能評価

○従来のセンター試験では「読む」「聞く」の技能しか評価できないため、外部検定試験を活用し、「読む」「聞く」「書く」「話す」の４技能を評価

○外部検定試験は、大学入試センターが試験の内容と実施体制を評価し、入学者選抜に適した試験を認定し、受検生は高３時２回まで受験することが可能

○大学入学共通テストの英語試験は、外部検定試験の実施・活用状況等を検証しつつ、平成３５年度までは実施

○外部検定試験の活用の仕方は各大学で検討されており、東京大学は外部検定試験を必須とはしないことを表明

◆試行調査（プレテスト）

○平成２９年度：各高校で１１月（一部２月）に全国５万人規模で実施

・記述式問題の内容や作問の在り方、記述式問題についての民間事業者を活用した採点体制・採点期間等について検証

○平成３０年度：会場となる大学等で１１月に全国１０万人規模で実施

・実施運営、問題作成について検証

○出題の特徴

・国語：複数の資料や文章を読み取り、適切にまとめて記述する問題

・数学：日常的な事象を数学的･科学的な視点で考察し、数式で記述する問題

→<u>さまざまな事象に関心を持ち、獲得した知識を活用することが必要</u>

２　個別選抜等の改革

◆入試区分の変更

○「一般入試」→「一般選抜」

「ＡＯ入試」→「総合型選抜」

「推薦入試」→「学校推薦型選抜」

◆調査書の見直し

○調査書の両面１面の制限を撤廃し、弾力的に記載

○大学が指定する特定の分野において、特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができることを明示

◆志望者本人の記載する資料等の見直し

○活動報告書･大学入学希望理由書･学修計画書を、総合型選抜や学校推薦型選抜において、プレゼンテーションなどにより積極的に活用

→<u>大学入学前の学習や多様な活動等に関する評価の充実</u>